

モニタリング結果報告書

施設 神奈川近代文学館
指定管理者 公益財団法人神奈川文学振興会
施設所管課 文化課

(平成 23 年度 下半期)

管理運営状況総括

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえ、判定してください）

A

<判定理由>

施設の魅力向上のため、提案を上回る取り組みを実施し、利用料金収入、利用者数ともに、経営改善目標を達成していること、交通機関との連携による広報費の節減など、経費削減に取り組んでおり良好な収支状況であること、また、利用者満足度調査の結果も問題ないことからA判定とした。

- A：提案を上回る取り組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
 B：提案どおりに取り組みを実施し、良好な管理運営状況である。
 C：提案どおりに取り組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
 D：提案どおりに取り組みを実施していない。また、提案どおりに取り組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
		月報確認	現場確認	電話確認		
10月	11月10日	○	○	○	なし	・「林芙美子展」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
11月	12月8日	○	○	○	なし	・「文学の森へ 第1部」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
12月	1月10日	○	○	○	なし	・講演会「私の本について話そう 35」をモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
1月	2月10日	○	○	○	なし	・「作家と万年筆展」、「文学の森へ 第2部」、かなぶん寄席 新春講談会、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
2月	3月9日	○	○	○	なし	・天声人語で紹介された「作家と万年筆展」を再度モニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。

3月	4月9日	○	○	○	なし	・「中藪英助展」、「新収蔵資料展」、「文学の森へ 第3部」、「中藪英助展」記念講座、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
----	------	---	---	---	----	--

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載してください。

<提案内容の概要>

人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案

- ① より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。
(集客を目指す展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)
- ② インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。
- ③ 専門館として文学のレファレンス^{*1}にきめ細かく対応する。
- ④ 館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。
- ⑤ 特別展^{*2}や企画展^{*3}と連携した講演会、朗読会、講座、映画会などの企画を開催し、利用者のニーズに応える。

※1 レファレンス： 文学に関する情報ないし資料等の各種問い合わせに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も多く、公共図書館等他施設から照会もある。

※2 特別展： 毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。年2～3回（春と秋）開催。

※3 企画展： 常設展「文学の森へ」と同時開催する展覧会で、展覧会ごとに新たな企画として開催する中規模の展覧会。展覧会区分としては特別展に属する。

<実施状況>

①・④	10月～11月	特別展「林芙美子展」を実施	入場者数	6,098名
	11月～1月	常設展「文学の森へ 第1部」を実施	入場者数	1,311名
	1月～2月	企画展「作家と万年筆展」	}	入場者数
		常設展「文学の森へ 第2部」を実施		
	3月	企画展「中藪英助展」「新収蔵資料展」	}	入場者数
		常設展「文学の森へ 第3部」を実施		
				(年間計：45,348名)

② 近代文学館のホームページで実施

ホームページアクセス件数 59,754件(うち蔵書アクセス件数 21,518件)
(年間計：155,578件 うち蔵書アクセス件数 53,973件)

③ レファレンス対応

103件
(年間計：213件)

⑤ 10月

「林芙美子展」記念講演会、「林芙美子展」ギャラリートーク
 「林芙美子展」記念朗読会、花音朗読コンサート
 文芸映画を観る会（映画会）、「文字・活字文化の日」記念朗読会 他

11月

「林芙美子展」記念講演会、「林芙美子展」記念朗読会
 「林芙美子展」ギャラリートーク 他

12月

「私の本について話そう」35

1月

かなぶん寄席 新春講談会、「作家と万年筆展」ギャラリートーク 他

2月

「私の本について話そう」36、「作家と万年筆展」ギャラリートーク
 文芸映画を観る会（映画会）

3月

「中藪英助展」記念講座、「中藪英助展」ギャラリートーク
 「紙芝居がはじまるよ!」、「春休み子ども映画会」他

計 43 回
 (年間計:88 回)

4 収支状況 (単位:千円) 注:千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額				支出額	収支差額
	収入合計	指定管理料	利用料金	その他収入		
年間予算額 今期 (前期)	407,504 (415,258)	391,896 (402,771)	8,774 (6,274)	6,834 (6,213)	407,504 (415,258)	0 (0)
下半期 予算額	222,802	215,165	4,382	3,255	222,802	0
10月	33,121	30,916	1,289	916	34,877	△1,756
11月	30,120	28,741	945	434	26,980	3,140
12月	50,819	50,436	299	84	49,089	1,730
1月	26,423	25,818	528	77	28,978	△2,555
2月	31,709	30,295	1,177	236	26,241	5,467
3月	49,436	48,959	284	192	76,147	△26,711
今年度 半期計	221,631	215,165	4,524	1,941	242,314	△20,683
前年度 同期計	231,559	223,747	3,569	4,242	252,293	△20,733

- 1 指定管理者の収入を記載してください(県の収入である「使用料」は含みません。)
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載してください。

収支状況に関する意見等

- ① 年間予算額における収支差額が0でない場合は、その理由を記載してください。
- ② 今年度半期計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し詳細に記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載してください。また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載してください。
- ③ 今年度半期計における収入額又は支出額が前年度対比 30%以上プラス又はマイナスとなっている場合は、理由を分析し、詳細に記載してください。

<意見等>
特になし。

<参考>

本施設について県が支出した（する）修繕費等

100万円以上の修繕費等については、県が支出することと基本協定で定めている。施設の状況をよりの確に把握するため、県が支出した修繕費等についても参考に記載している。

- 県が支出した施設の修繕費等の金額及び工事内容を記載してください。
- 「金額」欄は、半期ごとの総額を記載し、「工事箇所・内容」欄には、主な工事とその金額をカッコ書きで記載してください。
- 修繕等の一覧がある場合は、参考にご提供くださるようお願いします。

	金額	工事箇所・内容
上半期	—	
下半期	3, 591千円	自家発起動用蓄電池交換工事（3, 591千円）
総額	3, 591千円	

(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)

該当なし

	内容	金額(千円)
収入の状況		
支出の状況		
積立等の状況		(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載してください。

支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載してください。

積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載してください。

5 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	6,378人	8,294人	△23.1%
11月	5,564人	6,960人	△20.1%
12月	2,722人	3,239人	△16.0%
1月	3,040人	2,117人	43.6%
2月	5,661人	2,715人	108.5%
3月	2,351人	1,437人	63.6%

	目標利用者数 (年間)	利用者数	前年同月 利用者数	目標対比 増減率	前年対比 増減率
今年度 上半期計	57,400人	45,513人	31,915人	24.1%	42.6%
今年度 下半期計		25,716人	24,762人		3.9%

利用状況に関する意見等

- ① 今年度上(下)半期計の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由及び対応策を分析し記載してください(特に、理由の記載にあたっては、各月の状況を分析し、わかりやすく具体的に記載してください)。
- ② 目標利用者数を下回った場合は、その理由を記載してください。
なお、目標利用者数を定めていない場合は、未記入もやむを得ませんが、次回以降は記入してください。

<意見等>

・秋季に開催した「林芙美子展」は、「今なぜ林芙美子か」というテーマを大きく掲げ、芙美子作品の現代性に焦点をあてたが、紙面等で紹介された広報実績数においても前年度開催した「小泉八雲展」には及ばなかった。林芙美子は、人により評価の異なる作家であり、また教科書に取り上げられる機会も少なかったことで、読者層の高齢化が顕著となり、新宿歴史博物館との共催や朗読会・講演会など様々な取り組みをもってしても、前年実績ほど観覧者数に結びつかなかった。

・前年度と比べると、高齢者の割合が4%ほど上昇しており、利用者アンケートでも、「とてもなつかしい思いを感じた」「貧困の中で力強く働く人のための芙美子作品をもっと読みたい」など共感を得た評価が多く見受けられ、展示テーマが観覧者一人一人に深く伝わったものと考えられる。

・1月～2月に開催した「作家と万年筆展」は、作家の筆記具に注目するという新しい視点によるテーマ展として様々な場で評価され、厳寒期に開催された展覧会としては、多くの観覧者があった。個人作家展だけに頼らない新たな分野の開発に先鞭をつける好企画となった。

・東日本大震災が発生した昨年3月と比べると、企画展の開催効果もあり、観覧者数は、大幅に増加した。

6 苦情・要望等の状況

受付件数（うち施設所管課受付分）

下半期報告	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	()	()	1 (0)	()	62 (0)	63 (0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなど、特に注意すべき場合に記載してください。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・太い傘も対応出来る鍵付きの傘立てを用意して欲しい。	既存の鍵付きの傘立ての留め金を太い傘に対応できるように交換した。
	・ビデオに早送り、巻き戻しの機能を付けて欲しい。	機能を追加した。
職員対応	・	
	・	
事業内容	・撮影禁止のタグを増やした方が良い。	ユニバーサルデザインに準拠したマークを多数設置した。
	・今まであまり知られていなかった人、あるいは真の評価がなされていなかったような人を顕彰するような企画をお願いしたい。	「中菌英助」展を開催。利用者アンケートからも「中菌の研究は非常に少ないため、今回の展示はたいへん貴重」とのご意見を頂いた。
その他	・ミュージアムグッズがもう少し欲しい。	展覧会によっては、企画内容に見合った商品が少ない時があるが、販売スペースを勘案しながら、様々なグッズの販売に努めた。

8 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載してください。

なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出してください。

該当なし。

発生日	事故の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)
月 日			

9 随時モニタリングの実施状況

〔 事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載してください。 〕

該当なし

実施日 (事故発生日)	対応者等	経緯・調査内容	調査結果(指定管理者の課題の有無等を含む)
月 日 (月 日)			
月 日 (月 日)			

10 下半期の所見等

〔 2～9の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載してください。 〕

指定管理者

展覧会事業に関しては、1月に開催した「作家と万年筆展」が全国新聞紙、週刊誌に複数取り上げられたことで、閑散期としては非常に多数の入場者があり、冬期の入場者の低減抑制に大きな効果を上げた。

この結果、23年度は上半期の好調もあって、年間あたりの展示入場者が、前年比40.1%増の45,348人で、平成2年以來20年ぶりに4万人を超えた。さらに館全体の利用者は、前年比25.7%増の71,229人と極めて高い実績を収めることが出来た。

また観覧料収入は、65歳以上及び高校生の有料化も加わり、前年比2.3倍増の13,239千円と大幅増となり、これも過去最高を記録した。

集客をめざす展覧会に館蔵資料や新収蔵資料を活用した館ならではの展覧会をうまく組み合わせることで、利用者の増加をはかるとともに、館の独自性を発揮していきたい。

また、この増収益を有効に活用し、施設の維持や保全、収蔵能力の向上、AEDの導入、展示内容や設備の充実、または館及び事業の周知等に役立て、施設と事業の全般にわたり充実を図った。

さらに、今後も電気料金値上げへの対策としてLED照明等をフルに活用し、サービスの水準を維持しつつ効率的な節電等を促進し、同時に利用者数の維持と根幹になる資料収集の充実、収蔵効率の更なる向上などを目指して行きたい。

館事業の拡充を図るためにも、高校、大学など教育機関他との連携、新たなメディアの積極的な取り込みなどによって、若年層の獲得をはかり、23年度の成果を維持できるよう努めたい。

施設所管課

- ・ 展覧会については、知名度の高い作家個人に焦点をあてた、一般に馴染み易い個人展「遠藤周作展」や「林芙美子展」をはじめ、夏休みには、児童向け展覧会として「安野光雅展」を、また新たな試みとして、作家の筆記具に注目した独自のテーマによる「作家と万年筆展」、さらには、所蔵資料を最大限に活用した神奈川近代文学館ならではの展示として「漱石と文人たちの書画展」や「中藺英助展」を開催し、年間を通し魅力ある展示を企画することで、来館者数の増加に努め、大きな成果を上げている。
- ・ また、展示と関連した講演会、朗読会、映画会など各種事業の充実を図ることで、幅広い年齢層が文学に親しむ機会の提供に努めている。
- ・ 運営管理については、来館者の要望にできるだけ応え、概ね良好になされている。
- ・ 引き続き、多角的な事業運営の方針を維持しつつ、収益性も兼ね備えた企画を展開し、利用料金収入の安定と経費等を工夫した運営に努めていただきたい。